

令和2年6月12日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名	マラリアワクチン候補分子トランスアミダーゼ様分子の ヒトマラリアでの抗原性および遺伝子多様性の解析
研究開発機関名	国立大学法人長崎大学
研究開発代表者名	平山 謙二

フィリピンにおけるマラリア患者の保存血液検体を用いてワクチン抗原候補遺伝子の選定を行い、新規マラリア患者検体を用いた免疫応答の遺伝子解析が行われたことは評価できる。TAM (transamidase like molecule)に代わる新規ワクチン抗原の同定には至らなかったものの、本研究開発の継続により、新たなマラリア対策に繋がる可能性がある。また、日本側とフィリピン側の研究者チーム間においては、活発な研究交流が行われ、フィリピンの科学技術の発展に貢献した。

一方、フィリピン側で臨床試料入手の許認可等に時間を要したことにより、当初の研究計画から遅延が生じ、詳細な解析データがまだ蓄積されていない。また、マラリアがより重篤なミャンマーにおいて、試料の入手、解析が行えておらず、3カ国連携による優位性が見られない。

今後も引き続き、フィリピンとミャンマーとの共同研究体制の維持・再構築化を図り、本研究開発で得られた結果の臨床的意義や今後の展開を明確にすることを期待する。

以上